

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。  
■文中で旧 URL (<http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>) を記載している場合、新 URL (<http://i-agri.net>) に読み替えてください。

平成15年 1月

## 病害虫防除技術情報

No.14 - 3

岩手県病害虫防除所

### 反射資材を利用したキュウリウイルス病の軽減効果

近年アブラムシによって媒介されるキュウリウイルス病の発生が増加してきている。反射資材を利用することで、ウイルスを媒介するアブラムシの飛来を抑制し、ウイルス病の発生を軽減させることができる。

反射マルチと防虫テープをあわせて利用し、防虫テープはアーチのネット上に、50～80cm間隔でキュウリの生育にあわせて順次2～3段張るの方法が有効であった。

#### ウイルス病の発生状況

- ・防除所の巡回調査では、近年キュウリウイルス病の発生圃場が増加している(図1)。
- ・県内で主に発生している病原ウイルスの種類は、主にCMV、ZYMV、WMVの3種類であり、これらのウイルスは主にアブラムシによって媒介される。
- ・キュウリにおけるモザイク症状の発生は例年7～8月である。しかし有翅アブラムシの発生は、6月前半から7月前半に多くみられ、この時期にウイルス病が多く感染していると推定される(図2)。



モザイク症状 (ZYMV)

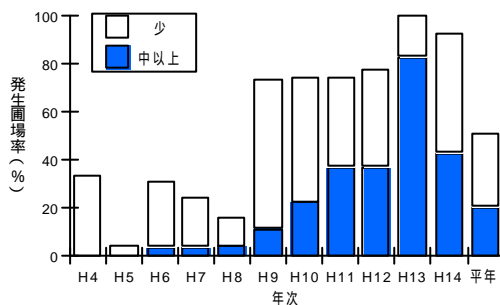


図1 年次別発生圃場率(8月)

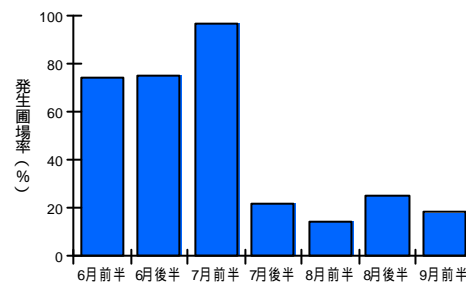


図2 有翅アブラムシ発生圃場率の推移(H14)

#### 反射資材(反射マルチ+防虫テープ)の効果

- ・反射資材の利用で、アブラムシの飛来を忌避することができる。
- ・ウイルス病を媒介するアブラムシを忌避することでウイルスの感染が遅れ、ウイルスの増殖量が少ないことから症状も軽く経過する。
- ・反射マルチと防虫テープを両方利用することで、それぞれの資材を単独で利用するより高い効果が得られ、防虫テープをアーチのネット上に50～80cm間隔でキュウリの生育にあわせて順次2～3段張る等の方法が有効であった。
- ・防虫テープは十分な量を設置し、できるだけキュウリの近くに設置した方が高い効果が得られる。逆におまじない程度の僅かな設置量や圃場周辺だけの設置では効果が低い。またキュウリがテープを覆い隠すと効果は低下するので、その前に上の段を設置する。
- ・アブラムシの発生状況や圃場環境によって効果は変動するので、圃場によって有効な反射資材の設置方法を実施し、アブラムシの発生状況に応じて適切な薬剤防除も必要となる。

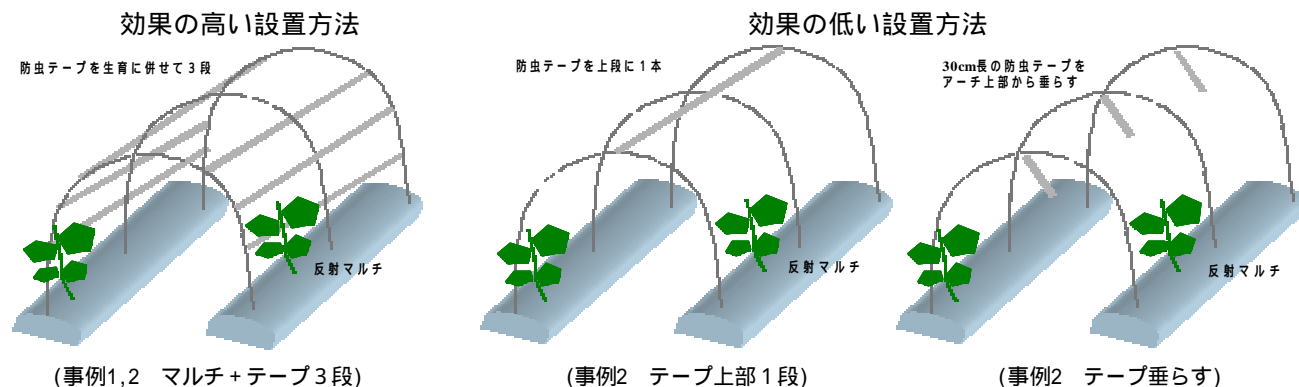


防虫テープを2段設置

現地における実証

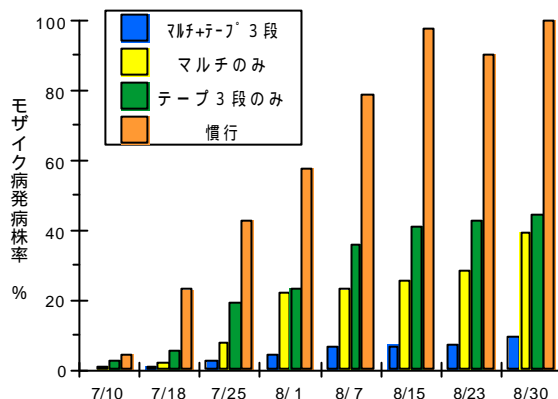
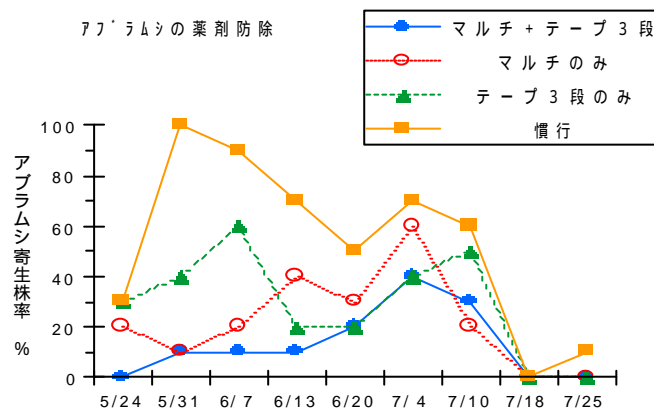
反射資材の設置方法

慣行のグリーンマルチのみに対して、マルチは反射マルチ（K Oグリーン：みかど化工製）を使用した。テープは市販の30mm幅の防虫テープを使用し、定植直後～2週間の間にキュウリの生長点から50cm程度上部に横に一直線に張り、生育にあわせて順次2～3段張った。また、効果の低い（おまじない程度）設置例として、テープをアーチの上部に1段張ることや30cm長のテープをアーチ上部から垂らす方法も実施した。薬剤防除は全ての区で農家慣行で実施した。



事例1（平成14年 江刺市愛宕）

反射マルチと防虫テープを同時に利用することで、それぞれの資材を単独で利用するより高い効果が得られた。



事例2（平成14年 江刺市広瀬）

防虫テープはより多く設置するほど効果が高く、上部に1本やアーチ毎に垂らす程度では十分な効果は得られなかった。

